

2026年2月7日、カタルのドーハにおけるアルジャズィーラ・フォーラム「パレスチナ問題と地域のバランス」におけるイランのアッバース・アラグチ外相による基調講演

英語原文：<https://en.mfa.ir/portal/newsview/782663>（最終閲覧 2026年3月18日）

講演動画：<https://www.youtube.com/watch?v=kcZjjapPQ78>（18:20頃より29:15頃まで、最終閲覧 2026年3月18日）



慈悲遍く慈悲深き神の御名において

閣下各位、

尊敬する同僚の皆様、

ご列席の皆様、

アッサラーム・アライクム

この名誉あるフォーラムにおいて皆様に向け、私たちの地域の深遠な問題、パレスチナについてお話し、議論できることを光栄に存じます。

まず、この地域が数十年にわたる苦難に満ちた経験を通して学び、そして世界が甚大な人命の犠牲を払って再び学びつつある事実から始めたいと思います。

それは「パレスチナは数多くある問題の中の一つではない」という事実です。

パレスチナは、西アジアのみならず、世界全体における正義を決定づける問題です。それは、私たちの地域の戦略的かつ道徳的な羅針盤であります。それは次のことをめぐる試金石となっています。すなわち、果たして国際法には意味があるのか、人権には普遍的な価値があるのか、そして国際機関は弱者を守るために存在するのか、それとも強者の力を正当化するためだけに存在するのか、です。

何世代にもわたって、パレスチナ危機は、専ら不法な占領の結果であり、奪うことのできない権利たる民族の自決権が否定された結果であると理解されてきました。しかし今日、私たちは次のこ

とを認識せねばなりません。この危機は、占領という枠組みをはるかに超えているのです。ガザで私たちが目撃しているのは、単なる戦争ではありません。対等な立場の当事者間の「紛争」でもありません。治安対策の不幸な副産物でもありません。これは、民間人の生活を意図的に、巨大な規模で破壊する行為なのです。ジェノサイドです。

ガザにおけるイスラエルの残虐行為がもたらした人的被害は、人類の良心を傷つけてきました。ムスリム世界の人々の心を引き裂き、さらに、ムスリムだけでなく世界中の何百万人もの人々——キリスト教徒、ユダヤ教徒、そしてあらゆる宗教の人々で、子どもの命を交渉の材料にしてはいけない、飢餓を武器にしてはいけない、病院を戦場にしてはいけない、家族を殺すことは自衛行為ではないと、今もなお信じる人々を激しく揺さぶりました。

今日のパレスチナは単なる悲劇ではありません。それは世界に向けて掲げられた鏡なのです。その鏡が映し出すのは、パレスチナ人の苦難だけではありません。この破滅的大惨事を阻止する力を持ちながら、そうする代わりにこれを正当化したり、助長して可能にしたり、特に問題のない普通のこととしたりすることを選んだ人々の、道徳的失敗を映し出しているのです。

しかし、パレスチナとガザは単なる人道的危機ではありません。より大きく、より危険な何かの基盤になっているのです。それは「安全保障」の旗を掲げて推進される拡張主義的プロジェクトです。

このプロジェクトは3つの結果をもたらします。いずれも深刻で、強い警告を発すべきものです。

第一の結果はグローバルなものです。パレスチナにおけるイスラエル政権の行動、そしてそれが処罰を免れていることは、国際法秩序に深刻な損害を与えてきました。私たちははっきりとこう言わねばなりません。世界は、今や国際法が尊重されず、国際関係を統御できない状況に向かっています。

おそらく最も危険なのは、前例が確立されつつあることです。つまり、ある国家が十分な政治的庇護を得れば、民間人を爆撃し、住民を包囲・封鎖し、インフラを攻撃し、国境を越えて個人を暗殺しても、合法とみなされてしまうことです。

これは単にパレスチナの問題ではありません。グローバルな問題です。

私たちはパレスチナの悲劇だけでなく、法がむき出しの力に取って代わられる場所へと世界が変貌しているのを目撃しているのです。

二つ目の影響は地域的なものです。イスラエルの拡張主義的プロジェクトは、この地域のすべての国々の安全保障を不安定化させてきました。

イスラエルの政権は今や公然と国境を侵犯しています。主権を侵害しています。他国の政府高官を暗殺しています。テロ活動を行っています。多方面に手を伸ばしています。そして、彼らはそれを目立たないようにではなく、公然と行っています。なぜなら、自分たちには国際的な責任追及がなされないと学んできたからです。

率直に申しましょう。ガザ問題が破壊と強制移住によって「解決」されるならば——そしてそれがモデルとなれば——次はヨルダン川西岸になります。併合が政策として進められるでしょう。

これが、ながらく「大イスラエル」プロジェクトと呼ばれてきたものの本質です。

したがって、問題はイスラエルの行動がパレスチナ人を脅かすかどうかには留まりません。問題は、この中東地域の人々が次のような将来を受け入れられるかどうかです。国境は一時的なもので、国家主権に様々な条件が付けられ、安全保障が法や外交ではなく、軍事占領者の野望によって決定される、そんな未来です。

三つ目の帰結は構造的なものです。そしておそらく最も危険なものです。

イスラエルの拡張主義的プロジェクトは、イスラエルの政権が恒久的に優位に立つために、近隣諸国を軍事的、技術的、経済的、そして社会的に弱体化させることを必要としています。

このプロジェクトにおいて、イスラエルは無制限に軍備を拡大することが可能となります。大量破壊兵器はいかなる査察の対象にもなりません。しかし、他の国々は武装解除を要求されています。防衛力の削減を迫られる国もあれば、科学の進歩を理由に罰せられる国もあります。レジリエンス(回復力)の構築を理由に制裁を受ける国もあります。

混同してはなりません。これは軍備管理ではありません。核不拡散でも、安全保障でもありません。

これは永続的な不平等の強制です。イスラエルは「軍事力、情報力、そして戦略的な優位性」を維持する一方で、他国は脆弱なままでいなければならないということです。これは支配のドクトリンです。

皆様、

だからこそ、パレスチナ問題は単なる人道問題ではないのです。戦略的な問題なのです。ガザとヨルダン川西岸地区だけの問題ではありません。私たちの地域の将来と世界のルールに関わる問題なのです。

では、何をすべきでしょうか？

懸念を表明するだけでは不十分です。声明を発表するだけでも、嘆くだけでも不十分です。私たちに協力的な行動戦略が必要なのです。国際法と集団責任の原則に根ざした、法的、外交的、経済的、そして安全保障に根差した行動戦略です。

第一に、国際社会は法的メカニズムを躊躇なく支持せねばなりません。

第二に、国際法違反には必ず結果が伴わねばなりません。

私たちは、包括的にして目的を絞った対イスラエル制裁を求めます。これには以下が含まれます。

- ・ 即時の武器禁輸
- ・ 軍事協力および情報協力の停止
- ・ 公務員に対する規制

そして、

- ・ 貿易の禁止

第三に、法に基づいた信頼できる政治的展望が必要です。国際社会は以下を確認する必要があります。

- ・ 占領の終結

・ 国際法に基づいた帰還と補償の権利

そして、

・ エルサレム(アラビア語でアルクドゥス・ツシャリーフ)を首都とする統一された独立パレスチナ国家の樹立

第四に、人道危機は緊急の国際的責任が求められる事案として扱われねばなりません。集団懲罰は決して常態化されてはなりません。

第五に、地域諸国は主権を守り、侵略を阻止するために連携せねばなりません。原則は明確でなければなりません。安全保障は他者の非安全の上に築くことはできません。

そして、

最後に、イスラーム世界、アラブ世界、そしてグローバルサウスの諸国は、統一された外交戦線を構築せねばなりません。

イスラーム協力機構(OIC)、アラブ連盟、そして諸々の地域機関は、象徴的な役割にとどまらず、法的支援、外交イニシアチブ、経済政策、そして戦略的メッセージ発信にわたる協調行動へと踏み出すべきであります。

これは対立ではありません。この地域がむき出しの力によって再編されるのを防ぐことなのです。

親愛なる同僚の皆様、

誤解してはなりません。一つの主体が法を無視して行動することを許す限り、地域の安定は維持できません。不処罰の原則は平和をもたらさず、より広範な紛争を生み出すでしょう。

安定への道は、はっきりしています。パレスチナの正義の実現、犯罪に対する責任追及、占領とアパルトヘイトの終結、主権、平等、そして協力に基づく地域秩序です。

世界が平和を望むなら、侵略に報酬を与えることをやめねばなりません。

世界が安定を望むなら、拡張主義を助長することをやめねばなりません。

世界が国際法を信じるなら、一貫性をもって、二重基準なくそれを実施せねばなりません。

そして、この地域の国々が永続的に戦争のない未来を求めるならば、この根本的な真実を認識しなければなりません。

パレスチナは単なる連帯の根拠ではなく、地域の安全保障にとって不可欠な礎なのです。

ご清聴ありがとうございました。

(訳・黒木英充)